

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

活動内容として、ESDにおいて本校がこれまで取り組んできた実践に照らし合わせ、「仲間づくり」「平和」「文化の多様性」「基本的人権の尊重」の4つのテーマについて報告します。

1 「仲間づくり」では、自尊感情を高め、自分を大切にしようとする態度を養い、他者とのコミュニケーションに積極的に取り組もうとする力を育てることを目標としています。ここでは、2年生の取り組みを報告します。

〈2年生〉

友だちの気持ちやその場にふさわしい話の聞き方や言葉のかけ方を学び、コミュニケーションスキルを高め、今以上に相手の立場を理解し、互いに思いやることのできる人間関係をつくるために、「やさしさいっぱい えがおいっぱい」というテーマで授業を行った。はじめに、友だちにしてもらってうれしかったことやいやだったことなどを話し合う活動を通して、「積極的な聞き方」スキル、「あたたかい言葉かけ」スキルについて学習した。そして、グループで友だちの良いところをお互いに伝え合う活動を行った。その後、「やさしさいっぱい週間」を設けて自分が友だちに対してやってみたいサポート活動などを決めて、1週間継続して決めた活動を行った。その結果、休み時間等のトラブルも1学期に比べて少しずつ減少し、友だちからしてもらってうれしかったことを伝える場面が増えた。また、2月には、「きょうからともだち」の教材を使って学習をした。自分のことだけでなく、相手の気持ちを考えて行動をすることが、仲間を増やしていくことにつながることに気づくことができた。

2 「平和」では、世界で起きていること、自分たちの身の回りで起きていることに関心を持ち自らの考えをもって、課題の解決に向けて積極的に行動しようとする態度を育てることを目標としています。ここでは、6年生の取り組みを報告します。

〈6年生〉

平和学習として「大阪戦跡めぐり・ピース大阪見学」を行った。大阪にも戦争があったことを資料を通して知り、戦争の恐ろしさを感じることができた。写真だけでなく、実際にあったものとして展示されているので、当時のことを現実に近づけて知ることができた。

「ヒロシマには歳はないんよ」の教材を使用し、語り継がれている当時の話を学習した際には、その時の人々の様子や被爆者のこと、家族の辛さや苦しみを知ることができた。学習を通して、自分たちにもヒロシマで起こった出来事を語り継いでいくという大切な役割があるということを感じることができた。

修学旅行では、インタビュー活動で外国の方とピースメッセージを交換したり、平和記念資料館の中を見学したり、被爆体験者の方のお話を聞いたり

して戦争や平和についてさらに深く考えることができた。児童は、誰かではなく自分たちで平和を築いていかななくてはならないことを感じていた。今自分たちの環境を当たり前思わず、まずは身近な友だちと仲良くすることや協力することからはじめていきたいという児童もいた。

難民についての学習を通して、事実を知るだけでなく、自分たちになにかできることはないのだろうかと考えた。そこで、難民への支援活動である「“服のチカラ”プロジェクト」に参加し、実際に古着を集め届ける活動を行った。自分たちで具体的な策を考え、できるだけたくさん服を集めたいという思いから、全校への呼びかけや、回収箱の作成、ポスター作り等、主体的に活動することができた。その結果自分たちの“チカラ”で多くの服が集まり、達成感や自主的に行動することの大切さを感じることができた。

③ 「文化の多様性」では、世界の様々な文化に興味をもち、人々の暮らしにちがいがあることを知るとともに、ちがいを認め尊重しようとする態度を育てることを目標にしています。ここでは、1年生・5年生の取り組みを報告します。

〈1年生〉

人権教育読本「ひと・つながり」の「こんにちは」で紹介されている国々のあいさつの文字と音声、民族衣装を集めたパワーポイントによるを作成して授業を行った。まず、日本のこんにちはからはじめ、晴れ着を着ている子どもの画像を見ながら「毎日着るものではなく特別な日に着る衣装」であることを確認した。それぞれの国の美しい衣装を見たり、あいさつを発音したりし、他国の文化に親しんだ。

また、「サラム（民話編）」より韓国・朝鮮の2つの民話の拡大した絵本を用いて読み聞かせを行った。読み聞かせを行う前に、日本の昔話に出てくる登場人物や動物について出し合った。読み聞かせが大好きな1年生たちはとても楽しそうに読み聞かせを聞いていた。聞いたあとは、おもしろかったことやすきなところについて感想を交流した。

さらに、ソンセンニム（民族講師）から自己紹介や遊びの説明をしてもらい、グループに分かれて遊びを行った。ペンイ・ユンノリ・ピソチギ・チェギチャギ・コンギ・トゥホの6つの遊びは、どれもはじめて体験する遊びであったが、みな興味深そうに取り組んでいた。韓国・朝鮮独特の遊びもあるが、ペンイやユンノリはそれぞれ、日本のこま、すごろくと似ているということも気づくことができた。

〈5年生〉

「コリアタウンへようこそ」を学習し、大阪には韓国・朝鮮の人がたくさんいることを学習した。コリアタウンの存在を知っている児童が少ないことから、五感を使って体験するため実際に行ってみることにした。コリアタウンに詳しいソンセンニムと一緒に行ってもらい説明をもらうことにより、古代から日本と韓国・朝鮮は深い関わりがあったことを知った。また、食文化にも興味をもつことができた。

